

コード No. 18545

**Anti-Human
Leptin (C) Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 100 µg

はじめに : *obese* 突然変異マウスは通常マウスの2倍以上に肥満して育ち、肥満研究において重要な役割を果たしています。このマウスは *obese* 遺伝子に変異がみられ、これが肥満の原因となっています。*obese* 遺伝子産物は、ギリシャ語の *Leptos* (痩せている) から *Leptin* (レプチン) と名付けられ、肥満動物の脂肪組織で多く発現しています。主に視床下部弓状核に作用して、摂食量と体重増加の抑制をもたらします。レプチンの作用として、生体内の脂質や糖の代謝調節作用の重要性が報告されています。脂肪細胞が分泌するレプチンは、脂肪細胞以外の細胞に過剰の脂質が蓄積するのを抑制する作用をもっているらしく、レプチンがきちんと働かないと膵細胞や肝細胞などに脂質の過剰な蓄積が起こり、最終的にはインスリン抵抗性といった糖尿病の症状へと悪化していると考えられます。このように、レプチンの測定は肥満のみならず糖尿病関連の研究に有用です。その後、レプチンが中枢神経系を通して骨形成の有力なインヒビターとして働き、骨密度の制御とその病気の主要な役割を演じていることが報告され、骨研究でのレプチン解析も注目されています。

免疫抗原 : Human Leptin の C 端部分合成ペプチド

精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製

包装形態 : 1 % BSA、0.05 % NaN₃ 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定

安定性 : 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定

使用目的及び : ウェスタン・ブロッティング 1~5 µg/mL にて使用可能

使用方法

特異性 : Mouse, Rat と交差